

2022年2月18日
全日本空道連盟理事長
国際空道連盟理事長代行
高橋 英明

世界空道選手権大会ならびに世界空道ジュニア選手権大会について（その2）

一昨日に発信したばかりですが、昨晚遅くに次のようなニュースがありましたので、続編として発信します。

時事通信社ニュース 2022/02/17 22:29

岸田文雄首相は17日、首相官邸で記者会見し、新型コロナウイルスの変異株「オミクロン株」対策の基本方針について、「慎重さを堅持すると同時に第6波の出口に向かって徐々に歩み始める」と表明した。昨年11月下旬に強化した水際対策の緩和と、「まん延防止等重点措置」の5県解除を打ち出し、初めて「出口」に言及した。

首相は**現在原則停止している外国人の新規入国について「観光目的以外は認める」と述べ、ビジネスの短期滞在者、留学生、技能実習生などに門戸を開く方針を発表した。受け入れ企業や学校が管理を徹底することが条件。入国・帰国者の1日当たりの上限を3,500人から5,000人程度に拡大することも明らかにした。**

日本人帰国者らの入国時に原則7日間としている待機期間は、検査の陰性を条件に3日間に短縮すると説明。3回目のワクチンを接種済みで、感染が落ち着いている国からの入国者については、待機期間をなくす方針を示した。

オミクロン株の流行地域からの入国者に義務付ける指定施設での待機も、最大6日から一律3日に短縮する。

こうした一連の水際措置見直しは**3月1日から適用する。**

現在「原則禁止」としている外国人の新規入国は、遅くとも4月1日までには緩和されるだろうと予想していましたが、現時点でここまで踏み込んだ発言になるとまでは思っていませんでした。第6波のピークアウトの速度が遅く、3月1日までにどれだけ感染者の減少があるのかは不透明ではありますが、3回目のワクチン接種も進みつつあり、具体的に先が見えつつある状況だと認識しています。各国からの参加申込期限としている4月15日までには、一段の規制緩和が進むことを期待しています。世界大会の開催時期には、国によっては入国後3日間の隔離期間を必要としなくなる可能性もあり、そうすれば状況が大きく変わります。

連盟としては、3月に入ってからスポーツ庁への再度のヒヤリングも行いながら、世界大会の開催を模索していくつもりです。

以上